

「第36回京都府文化賞」の受賞者の決定及び授賞式の開催について

平成30年1月5日
京都府文化スポーツ部
文化芸術振興課
(電話075-414-4216)

京都府では、昭和57年度以来、毎年、京都の文化の振興・発展に功績のあった方等を顕彰しておりますが、第36回（平成29年度）京都府文化賞受賞者を別添のとおり決定し、下記のとおり授賞式を執り行いますのでお知らせします。

記

<授賞式>

- 1 日 時：平成30年1月31日（水）午前11時から11時45分まで
- 2 会 場：京都府公館「レセプションホール」
京都市上京区烏丸通一条下ル龍前町590-1
- 3 出席者：受賞者及び同伴者、来賓（過去の受賞者等）（約120名）



第36回京都府文化賞受賞者紹介

受賞者の特徴等	<p>○京舞井上流の発展を支えた井上かづ子氏、井上政枝氏の同時受賞をはじめ、ブラックホールの解明につながる研究に功績のある理論物理学者の佐藤文隆氏らが特別功労賞を受賞。</p> <p>○功労賞は、日本画、伝統工芸、現代美術、邦楽など幅広い分野の方々が受賞。落語家として初めて桂塩鯛氏が受賞。数多くの映画に出演し、テレビや舞台でも活躍する俳優の中村玉緒氏が受賞。</p> <p>○奨励賞は、料理人の高橋拓児氏、塗師の中村宗哲氏、美術家の久門剛史氏など幅広い分野から、現在活躍する新進の芸術家が受賞。</p>
---------	--

	氏名	年齢	受賞者紹介	
特別功労賞	井上 かづ子	89	日本舞踊家	2人で結成した「椿会」をはじめ、祇園甲部歌舞会主催の「都をどり」「温習会」において、研さんを重ねた秀逸な舞を披露するとともに、舞妓・芸妓など後進の指導に尽力することで、長年にわたり京舞井上流の発展を支え、日本舞踊の発展に貢献。
	井上 政枝	88	日本舞踊家	
	佐藤 文隆	79	理論物理学	ビッグバンなど海外の最新の研究の国内における先駆者として、ブラックホールの解明につながる「富松・佐藤解」の発見など、相対論的宇宙物理学の発展に国内外で大きく貢献。
	土肥 みゆき	93	ピアニスト	長年の「伴奏リサイタル」において、日本の作曲家や詩人を研究して繊細な演奏を披露し、その成果をまとめた優れた研究書を発行するとともに、後進の指導にも尽力した。
	山田 慶児	85	科学史家	人文科学など幅広い分野を視野に入れ、独創的な発想と斬新な分析手法によって科学史研究に新生面を開き、長年にわたり日本科学史界の重鎮として活躍するとともに、後進の育成にも尽力した。
功労賞	岡村 倫行	73	日本画家	大画面に群像を描いた社会派的作品で注目され、神話や雄大な自然から得たイメージを繊細な女性像で表現して高く評価されるなど、日本画の第一人者として活躍し、教育者として後進の指導・育成にも注力。
	桂 塩鯛	62	落語家	登場人物に人間味を感じさせる独特の語り口で、上方屈指の面白さと定評。名跡「塩鯛」を67年ぶりに襲名し、古典落語はもちろん新作落語にも力を入れ、上方落語の普及と発展に貢献。
	小林 尚美	72	ファイバーアーティスト	海外の公募展にも多数参加し、「国際テキスタイル・トリエンナーレ」(ポーランド)金賞受賞など、現代ファイバーアートの第一人者として、ファイバーの持つ温かく柔らかな素材感のなかに主張のある強さや重厚感の息づく明快な構成を持つ立体造形が国内外で高く評価される。
	中村 玉緒	78	俳優	時代劇の娘役として多くの映画に出演し、「ブルーリボン賞助演女優賞」など受賞歴多数。テレビドラマやバラエティ番組にも出演し、全国的な知名度と人気を誇り、現在、京都名誉観光大使として、京都の観光振興にも尽力。
	名和 晃平	42	彫刻家	独自の「Cell(セル・細胞)」という概念を機軸に、先鋭的な彫刻・空間表現を展開する。多種多様なマテリアル、スケールによって「ものの表皮」と表現する視覚と触覚の境界へアプローチする造形美は人々を魅了する。
	西尾 智子	66	芸術文化プロデューサー	上賀茂神社における能舞台シリーズや、京都観世会館での新作能の上演など、従来の常識を打ち破り、現代に生きる古典芸能の新たな魅力を発信する企画を次々と制作・発表し、京都の古典芸能の振興に貢献。
	野田 弥生	70	箏曲家	デンマーク、アメリカなど海外での演奏会をはじめ、G8サミット外相会合や京都迎賓館での演奏により、箏曲を通じた日本文化の紹介に尽力し、大学や高校で後進の指導育成にも貢献。
	面屋 庄甫	70	京人形司	江戸時代から続く京人形司の技を継承し、伝統的技法による作品とともに現代空間にマッチした作品も発表。国内外で数々の作品展を開催するほか、後進に育成にも尽力。
奨励賞	杉原 邦生	35	演出家・舞台美術家	「CoRich舞台芸術まつり!2013春」グランプリを受賞した「黒塚」など、価値観が多様化する現代の社会問題等を探り上げ、多くの人を魅了するポップでダイナミックな作品を次々と発表。
	高橋 拓児	49	料理人	フランス料理や科学理論を取り入れた新スタイルの日本料理を提案し、若手料理人として注目されるとともに、日本料理アカデミー海外事業副委員長や、「日本食普及の親善大使」として日本の食文化の発展に尽力。
	豊嶋 晃嗣	44	能楽師	次世代能楽界の牽引役として能楽の発展と普及に努めるとともに、創作や多様なジャンルとのコラボレーションにより、新しい能楽の可能性に挑み続ける。
	中村 宗哲	52	塗師	千家十職塗師として秀逸な茶道具を制作するほか、京都の同世代の作家とのコラボレーションを通じて現代の感性で新たに表現された華やかで雅な作品も制作・発表。
	久門 剛史	36	美術家	「あいちトリエンナーレ2016」での大規模な連作や「アジア回廊 現代美術展」での二条城東南隅櫓を舞台にした作品など、音や光、立体を用いて構成する大型インスタレーション作品が、国内外で高く評価される。

(年齢は受賞日現在)